









Geelong Days 2026







GEELONG DAYS 2026　～干潟でつながる人・自然・未来～
発行　名古屋市環境局
〒460-0008　名古屋市中区栄一丁目 23-13　伏見ライフプラザ 13 階
TEL：052-223-1066　FAX：052-223-4199

発行年月　令和８年９月

さあ行こう ジロング市へ！

2026年3月25日、名古屋市から選ばれた18人の中学生は、
オーストラリアのジロング市へ飛び立ちました。

目　次

3p ····· 事業について

4p・5p ····· 藤前干潟をのぞいてみよう！

6p・7p ····· ジロングの魅力を発見！

8p・9p ····· ジロング市庁舎での発表

10p ····· スパロベール湿地・海洋淡水ディスカバリーセンター

11p ····· スワンベイ干潟

12p・13p ····· クイーンズクリフ港・ユーヤングスリージョナルパーク

14p ····· One Planet Festival

15p ····· メルボルン動物園

16p ····· めずらしい生きものたち

17p ····· オーストラリアで食べたもの

18p ～ 21p ····· みんなの感想

22p・23p ····· MEMORY ALBUM









はじめに

オーストラリアへ！



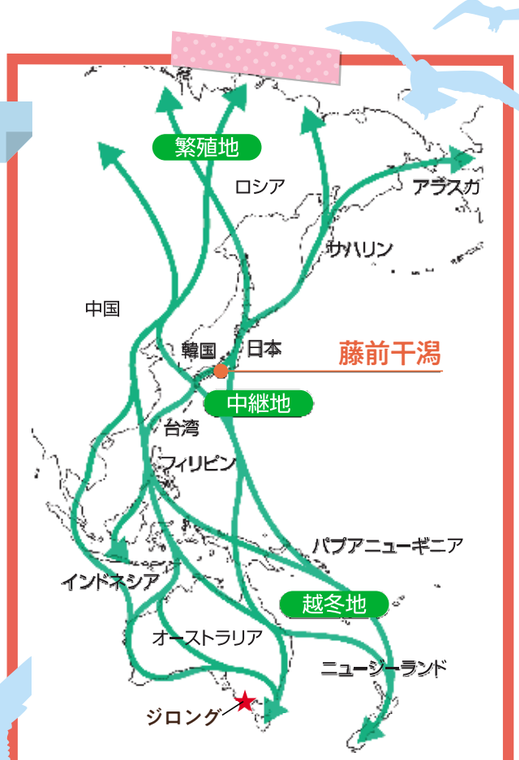
名古屋市では自ら環境保全に取り組むことができる人材を育成することを目的に、２年に１度、中学生をジロング市に派遣しています。私たちは令和８年３月にオーストラリア・ジロング市を訪れ、現地の人々と交流し、湿地の保全や活用の取り組みを学びました。

この記録誌は私たち中学生が肌で感じたことを伝えるため、考案から原稿作成、写真選びまで、自分たちの手で行い完成させたものです。これを読んだ１人でも多くの方々に私たちの思いが届くことを願っています。

名古屋市とジロング市のつながり

名古屋市にある藤前干潟は長距離を行き来する渡り鳥にとって大切な中継地です。豊富な餌があるこの場所で羽を休めた鳥たちは、シベリアやオーストラリアなどに向けて飛び立っていきます。

ジロング市には藤前干潟と渡り鳥のルートで繋がる湿地があり、互いにラムサール条約登録湿地を有することから、両市は2007年５月22日に湿地提携を結びました。それ以来、協力して渡り鳥の保護につながる湿地の保全や活用に取り組んでいます。



渡り鳥の経路





藤前干潟を のぞいてみよう！



藤前干潟ってどんなところ？

名古屋市の南西部、庄内川と新川、日光川が流れ込む河口部にあります。面積は323ヘクタールで干潟でしか見ることができないたくさんの生物が暮らしています。2002年11月18日にラムサール条約に登録されました。

干潟の特徴

潮の満ち引きにより、
1日に2回潮位が低くなると現れます。



潮がひいた時



潮が満ちた時

干潟に棲む生き物たち



モクズガニ



ヤマトシジミ



トビハゼ



トウネン

干潟の歴史

1980年代、名古屋市は藤前干潟をごみの埋立処分場とする計画を発表しました。

名古屋市のごみが増え続け、あと数年で愛岐処分場がいっぱいになってしまうと言われていたからです。しかし、干潟が失われることで、そこに棲む多くの生きものもいなくなり、その生きものを餌とする渡り鳥の休息地も失われてしまいます。渡り鳥の貴重な飛来地を守るため、市民による藤前干潟を守る活動が始まりました。

講演や生きもの観察会などを行うことで、多くの人に干潟の大切さを知ってもらおうとしました。その結果、名古屋市は1999年1月に埋立計画は中止し、翌月には「ごみ非常事態宣言」を発表、市民や事業者とごみを減らす取り組みを始めました。

その後、市民、事業者の協力と努力により、名古屋市は 2 年で 20%（20 万トン）のごみを減らすことができました。

藤前干潟で行った活動

実際に干潟に入って干潟の泥の中の生きものを観察しました。藤前干潟を守る会のガタレンジャーの方と一緒に引き網体験をしました。たくさんの小魚がとれました。

遠くから見る干潟と、中に入って体験する干潟は全く違いました。

スワンベイ干潟と藤前干潟は泥の感触や水温、水深も全く違い、たくさんのことを経験することができました。

野鳥観察もしたよ！
いろいろな鳥をみることができました







まとめ

藤前干潟はたくさんの生きものが暮らす大切な場所です。昔はごみの埋立計画がありましたが、多くの人の努力によって守られてきました。実際に干潟に入ったり、鳥を観察したりして、自然の豊かさや命の大切さを学ぶことができました。

これからも藤前干潟を守るために、一人ひとりができることを行っていきましょう。

ジロングの魅力を発見！

～町並みと羊毛博物館～

ジロングの町並み

歴史ある建物と海が近く
素敵な町並みでした！



きれいな町並み

ごみが少なくてとてもきれいな
まちだと思いました。



市役所

とても立派で映画の中に
出てきそうな建物でした！





ジロング港

海沿いを歩くと
気持ちがよくて
のんびりできました。



歴史を感じる町並み

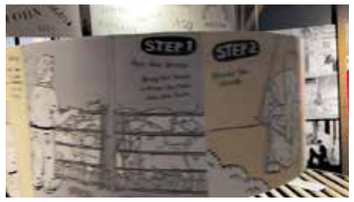
古い建物がたくさん残っていて
落ち着いた雰囲気がありました。

～感想～

歴史的な建物が残っていて、自然も豊かで歩いているだけで楽しかったです。ジロングの人たちはみんな優しくて、温かいまちだと感じました！

国立羊毛博物館

羊毛産業の歴史について
学びました！



羊毛ができるまで

羊の毛が変化していく流れを学びました。とても分かりやすかったです！



大きな機械！

動いているところは見ることが
できなかったけど
今も動くそうです。



羊の毛

たくさんの羊の毛を見て
思ったよりふわふわ！



博物館の建物

外観もとてもおしゃれで
歴史を感じました。

～感想～

羊毛産業がジロングの発展に大きく関わっていたことを知りました。実物の機械や展示を見ることで、教科書では学べないことをたくさん感じることができました！

自然・歴史・産業が共存するジロングはとても魅力的なまちでした！♥Thank you ！

ワダワラン族

"Wadawurrung"
っていいます

市庁舎の前ではオーストラリアの先住民族「ワダワラン族」の方が歓迎してくださいました。





ユーカリの木を燃やして行う「スモーキングセレモニー」というものです。

スモーキングセレモニーでは煙を体に浴びます。出産の時などのお祝いごとの時もするそうです。浴びてるときにお願い事をすると叶うとか叶わないとか！

普通の煙とは違う
匂いがします





市長も
浴びました

先住民族の楽器

ディジュリドゥという先住民族の楽器です。
低い音がなりました。







この上着！

この毛皮はオーストラリアに生息するポッサムという動物のものです。ポッサムの皮は太鼓などの楽器に使われることもあるそうです。

ポッサムです



ジロング市庁舎での発表

ジロング市庁舎で、市長さんや現地の方々に向けて
3つの班が事前学習の成果を発表しました。
緊張したけれど、練習の成果を発揮できました。



みんなで
記念撮影！

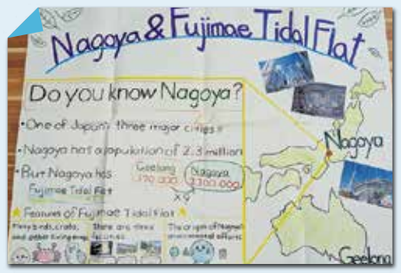


●発表を終えて

市長さんや現地の方々に発表するのは、とても緊張しましたが、自分たちの学びや考えを伝えることができ、大きな達成感を感じました。

A班 名古屋と藤前干潟の魅力





★コメント★ 豊富な写真やイラストを使ったり、クイズを何問か出したりして、分かりやすい説明を心がけました！

B班 一年を通して見られる藤前干潟の生き物

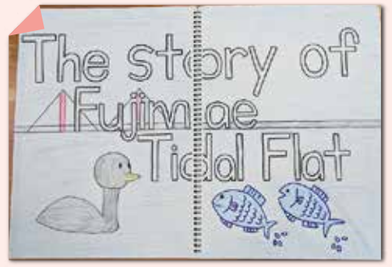




★コメント★ ポスターは文字をつめすぎないようにしたり、強調したり、ところによって配色やサイズを変えて、読んでもらいやすくしました！

C班 藤前干潟の歴史





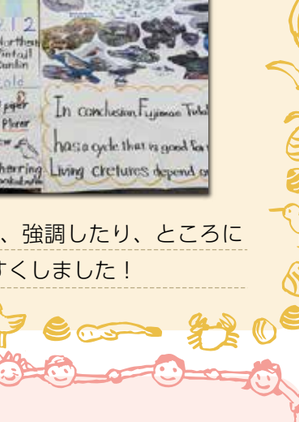
★コメント★ 紙しばい形式で発表することで、現地の方にも楽しんで発表を聞いてもらうことができました！

プレゼントを頂きました！！

発表の後には、ジロング市の方々とプレゼント交換を行いました。







メモ帳とはがきと動物の立体パズルをいただきました。

スパロベール湿地

● 役割

東側にあるラムサール条約登録湿地に栄養を送り続けています。
湿地保全のためにとても重要な場所です。



● 生きもの観察

事前に川から捕まえた生きものをスプーンですくいました。水生昆虫や魚類も見ることができましたが、エビが圧倒的に多かったです。

観察した生きもの


スジエビの仲間


水生昆虫


七面草の仲間

● ジロング市が購入

このあたりは開発が進み、住宅が増えました。
この湿地まで開発されることを防ぐため、市は 2019 年、500ha を購入し保全しています。

★感想

ここは、大きな草原と空がどこまでも続き、4km ほどの川が流れ、100を超える種類の鳥が確認されているとても自然豊かな場所です。いつまでもこの風景を守っていってほしいと感じました。

★課題

水不足が深刻化しており、
生物が減っています。
この地を守るために、たくさんの人が奮闘しています。

海洋・淡水ディスカバリーセンター

スワンベイ周辺の生態系について学べる州立の教育施設です。







スワンベイ周辺に生息する
生きものの展示・説明

・直接生きものに触れることができた！
・生きものが身近に感じられた！


← タッチプール

スワンベイ干潟

藤前干潟は泥干潟ですが、スワンベイ干潟は砂地で、海藻が広がり、藤前干潟と同様に多くの生きものがいました。



● 生きもの観察

実際に干潟に入って、ひき網で魚を捕まえたり、足元をよく見ながら貝などを捕まえたりしました。
その後、捕まえた生きものを観察し、種名が分からなかった時は、現地の環境保全団体の方に英語で質問しました。

● 役割

藤前干潟と同じく、多くの渡り鳥の渡り途中の休憩地や鳥たちの生息地を魚などの豊富なエサで支えています。
ラムサール条約にも登録されている重要な干潟の１つです。

Q1. どちらがスワンベイ干潟でしょうか？（答えは右下）

A



B





Q2. これは何の動物の糞でしょうか？

A.
コクチョウ



B.
ペリカン





スワンベイで
見られた鳥


オオアジサシ


カオジロサギ


シロハラトビコウ/ギンカモメ



★感想

一番驚いたことは糞がたくさん落ちていたことです。その糞を微生物が分解し、海藻の栄養になります。それらを底生生物や魚が食べ、最後に鳥が食べるという生態系の循環が成り立っていることを知りました。



答え　Q1.B　Q2.A

クイーンズクリフ港

クイーンズクリフ港は、ジロング市から30分ほどの所にあり、ポートフィリップ湾の入り口に位置するため、多くの船が来るそうです。





荒波で知られるため、パイロットボートを多く見かけることができました。

タワーにものぼったよ！

外来種について

クイーンズクリフ港では、外国からきた船が持ち込んだ外来種が広がったことにより、在来種の生活環境が奪われるなど、問題になっているそうです。

外来種の中には、日本由来の生きものもいるそうです。右の植物は何かご存じですか？これは「ワカメ」です！！でも向こうでは、わかめを "Bad guy"（悪いやつ）と呼んでいました。外来種が増えたため、在来種も外来種と間違われてしまうことがあるそうです。そのため、港の監視や呼びかけを強化していました。



感じたこと

- 棲む場所が変わるだけで問題になる！
- 外来種の問題解決には世界の協力と国内での在来種を守る工夫など、幅広く見る必要がある！

ポートフィリップ湾のオットセイも見ることができました。



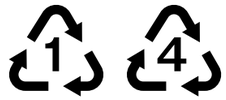
～ペットボトルキャップの再利用～

ペットボトルキャップ → キーホルダーになるまで

1. ペットボトルを洗う



2. ペットボトルキャップを種類で分ける



この２つのマークがポイント！

このあと色別でも分ける

3. 粉々に粉砕する



4. 機械への投入

機械の中では、
①熱で溶かしてドロドロに
②型に流し入れ
③冷して固める ⇒ 完成



ユー・ヤングス・リージョナル・パーク



- 鳥や虫などの生きものがたくさん生息していました。
  → 200種以上の鳥がいるそうです。
- 植物は乾燥しているオーストラリアにあった乾燥に強い植物が多いそうです。



オーストラリアは乾燥しているから火事が多いそうです。

One Planet Festival（ワンプラネットフェスティバル）

オーストラリアの環境フェスティバルに行ってきたよ！！

One Planet Festival ってなぁに？

持続可能な未来に向けた地球主導型のコミュニティイベント！
2026年はビクトリア州オーシャン・グローブで開催されました。
『環境にやさしいライフスタイル』をテーマに地域の植物やズグロチドリについてなど様々なブースが出展していました!!





オーストラリアの『ズグロチドリ』という鳥のブース

会場内には
ごみ箱がたくさんありました。





屋台や音楽を
発表するステージも
あったよー！！



メルボルン動物園



オーストラリア最古の動物園です。オーストラリア固有種のコアラやカンガルーの他にもたくさんの動物を見ることができました。

★学習したこと

メルボルン動物園での飼育状況、オーストラリア固有動物の生態、日本との違いを学びながら、見て回りました！

日本との違い

- 日本は檻やガラス張りが多いが、メルボルン動物園は低い柵が多かったです。
  ||
  動物との距離が近いため見えやすく、動物にとっても開放感があると思いました。
- 日本よりも飼育スペースが広く、飼育環境も元の生息地に近づけてありました。
  ||
  動物達のストレスを減らそうとしていることがわかりました。
- 園内マップは、日本の動物園は紙とデータ両方ありますが、メルボルン動物園はデータのみでした。

皆、真剣に話を
聞いています




コアラ


カンガルー


エミュー


ウォンバット



オーストラリアで食べたもの


ブレックファスト


ステーキ


フィッシュ&チップス


キッシュなど


和牛ハンバーガー


クロワッサン


ブリュレ


ティラミス


ピザ

Q. どれが英国由来かな？



イギリスの料理が沢山食べられました。植民地時代の影響でしょうか。

オーストラリアの食文化は、何といっても牛肉。ハンバーガー、ステーキ、牛肉のトマト煮込み等、産地でいただく牛肉はジューシーでした。朝食は、イングリッシュブレックファスト。 ソーセージ、焼トマト、豆の煮込みなど英国風。イギリスの植民地時代を思わせるメニューとしては、パーント・クリーム（ブリュレ）やフィッシュアンドチップス。どれもとてもおいしく、心に残りました。

A.
フィッシュ&チップス
ブレックファスト
ブリュレ

みんなの感想
Geelong Days 2026

みんなが学んで感じたこと、
思ったことを書きました。



派遣された中学生の皆さんが、事前学習から「藤前干潟の保全の歴史や魅力をジロング市の皆さんにしっかり伝えたい」という思いを持ち、熱心に準備に取り組む姿がとても印象的でした。現地では、市長を前に英語で堂々とプレゼンテーションを行い、環境保全活動に取り組む方々とも積極的に交流するなど、この事業を通して大きく成長した姿を見ることができました。この経験で得た学びや出会いを大切にし、これからも藤前干潟をはじめとする湿地の価値や大切さを多くの人に伝え、その思いを次の世代へとつないでいく存在として活躍してくれることを期待しています。

同行者　名古屋市職員　**板倉 里奈**

第1回目のジロング派遣に参加してから、18年ぶり2回目の参加となりました。

1回目はただ現地を見て回るだけの、受け身のプログラムが多かった記憶がありましたが、今回はとにかく学生たちが積極的に行動し、ガイドさんや現地のスタッフにいろいろ質問をしている姿に感銘を受けました。

英語を話すことができなくても、スマホアプリや知っている英単語の羅列を駆使して現地の方の声を聴き、交流しようという姿勢は自分も見習いたいと思います。

参加した学生たちには、今回のジロングへの派遣事業への参加を一過性のものとしないで、今後も藤前干潟や身の回りの環境問題など自然を見守る仲間として、ともに活動できることを期待しています。

そして自分も皆に負けないよう、より一層気合を入れて干潟での活動を頑張っていきたいと思います。

NPO 法人藤前干潟を守る会　**梅村 幸稔**



2018年に続き2回目となった今回のジロング市への同行。特に印象に残ったのは、前回は見られなかった潮の引いたスワンベイです。多くのコクチョウやヘラサギの仲間などが干潟に集まる光景を見て、スワンベイの豊かさを改めて感じました。

また、ジロング市役所での温かい歓迎や、湿地保全に携わる方々による丁寧なガイドも忘れられない経験です。中学生のみなさんが現地の方々に積極的に英語で質問し、学ぶ姿を見て、大変うれしく思いました。

ジロング市、名古屋市、そして家族など多くの人の支えによって得られたこの貴重な経験を、ぜひとも今後にいかしてほしいと思います。私もジロング市と藤前干潟の生きものの魅力について伝えていきます。

名古屋市野鳥観察館
指定管理者　東海・稲永ネットワーク　**野村 朋子**

今回の事業を通して、皆さんが環境問題を「自分のこと」として考え、行動につなげられるようになったのは、とても大きな成長だと感じています。また、自分が学んだことや体験したことを英語で伝える難しさも、実感したのではないでしょうか。

最初は藤前干潟について知らなかった人も多かったと思いますが、今ではそれぞれがその歴史や魅力をしっかり伝えられるようになりました。そんな皆さんが真剣に取り組んでいる姿を見ることができて、担当としてとてもうれしく思っています。

この事業をきっかけに、これからも藤前干潟をはじめとした環境保全に、いろいろな形で関わってもらえたらうれしいです。そして、また別の機会に一緒に活動できることを楽しみにしています。

同行者　名古屋市職員　**樫原 洸貴**

環境先進国から学ぶべきこと

僕が印象に残ったことは、いくつかのオーストラリアの環境保全団体の話を聞く中で、受け手がすぐに行動を起こせるような「きっかけ」を与えていると思ったことです。

例えば「One Planet Festival」というイベントでは、在来植物を配り、駆除してほしい外来植物の特徴を伝え、身の回りにそれらを見つけたらその在来植物を代わりに植えてもらう活動をしている団体や、砂時計を配り、時間内にシャワーを浴び終わる基準を作ることで節水に繋げる団体などがありました。

これらによって、「きっかけ」を受け取った人たちの意識は確実に変化し、きっとまた次の人たちへと繋がっていくと思います。この経験を生かして、僕も多くの人たちにとって環境保全の「きっかけ」になれるような活動をしていきたいです。

伊藤　朔

環境保全の大切さ

私が特に印象に残ったことは、藤前干潟とスワンベイ干潟の景色が異なっていたことです。藤前干潟は泥干潟ですが、スワンベイ干潟には水草が広がっており、同じ干潟でも環境が違うことに驚きました。

私はガタレンジャーJr.として藤前干潟の保全活動に取り組み、アナジャコや貝類、野鳥など多くの生きものの住処であることを学んできました。そして、スワンベイ干潟にも多くの生きものが暮らしていることを知り、干潟が多くの生きものの命を支える大切な場所であることを改めて実感しました。

今回の派遣を通して、自然を守り未来へ繋いでいくことの重要性を学ぶことができました。これからも環境保全活動に積極的に取り込み、その大切さを多くの人に伝えていきたいです。

川口 華乃

ジロング市で学んだこと

ジロング市。大きな景色の中、環境に対する「考え方」に触れる機会がありました。到着から三日目、緑の芝生が印象的な公園のフェスティバルでは、多くのパラソルと人で賑わい、いろいろな説明が行われていました。パラソルの下にはさまざまな植物が売られ、高齢者やお手伝いをする子供たち、熱心に説明を受ける人、再生製品もありました。そこではマイクロプラスチックが、魚や環境に与える影響や、私達とは違うゴミの分別を聴きました。環境問題は世界共通でもそれに対する「方法」はそれぞれなのだと知りました。実際に体感したスワンベイ干潟では、ぐにゅぐにゅする水の中、赤い嘴のブラックスワンが飛ぶのを観ました。この鳥のフンが微生物のエサとなり、微生物が魚のエサに、魚は鳥のエサとなる。命が繋がる光景を観ました。少しの範囲でも、たくさんの生き物がその場所で生きている。自然と目が開くような、いかに大切なものなのかを感じる6日間でした。この感動を生かし、周りの人へも伝えていく自分になりたいです。

小栗 麻里衣

見えない場所に広がる命

今回のジロング研修で最も印象に残ったのは湿地見学です。実際に湿地の中に入り引き網をして生物を調査しました。見た目はあまり生きものがいないように感じましたが網の中には小さな魚やエビがたくさんいてとても驚きました。この体験を通して、湿地は多くの生きものの命を支える大切な環境であることを実感しました。また、ジロングでは自然環境を守るための取り組みが行われており、人と自然が共存していることを感じました。街にもごみが少なく環境への意識の高さが伝わってきました。私は名古屋市の藤前干潟について学んできましたが今回ジロングの湿地を実際に見て入ることで湿地は国や地域がちがっていても生態系を支える重要な場所であることが分かりました。自然環境は一度失われると元に戻すことが難しいため守り続けることが大切だと思いました。今回学んだことを今後の学習に生かし身近な自然や環境問題に関心を持ち続けたいです。

伊藤 和佳葉

"Every little thing makes a difference."

「どんな小さいことでも、意味がある。どんな小さな行動でも、世界を変える力がある。」

この研修を通して、世界は繋がっており、環境保全には国をこえた協力が必要だと強く感じました。ジロングでは、市全体にごみ箱を多く設置し、市民が環境保全をしやすいようにしていました。他にも、各家庭で節水に努めたり、在来種を保護したり、行政と団体が協力するなど様々な取り組みを学びましたが、やり方が違うから間違いではなく、考え方が違うだけであって、環境保全の対する気持ちはどれも同じで大切だと思いました。

今回得た学びを、これから多くの人に伝え、環境保全に取り組む世界の一員となれるよう、私も努力していきたいです。

金原 光希

私が感じたこと

私は今回の派遣でジロング市について4つのことを感じました。

1つ目は市民が生きものの生息域を守っていることです。そのため、たくさんの自然が残っていました。

2つ目は「知る」で終わらせないことです。環境問題に目を向けやすく、自分にできることを意識しやすいと思いました。3つ目は自然と上手く付き合えていることです。人間の暮らしを確保しながらも自然を守ることができていました。4つ目は自然のために多くの人が努力していることです。日本とは違った取り組みもあり、同じ仲間との交流は大事だと思いました。

今回、日本の外とのつながりを実感しました。環境問題は一つの国だけが頑張っても解決しません。いろいろな国で頑張っていることを知り、私たちも頑張らなければと感じさせられました。

栗本 紗弥

美しい自然を見て

今回のオーストラリア・ジロング市への派遣で特に印象に残ったことは、街中の至る所にごみ箱が設置され、一人一人の環境への意識が高かったことです。その意識は美しい海や空、野鳥などの自然を大切にする気持ちに繋がっているように感じました。

一方、名古屋ではごみ箱が少ないことからか、道路や公園でポイ捨てを見かけました。日本でも環境問題を個人単位の問題として認識し、環境保全に取り組んでいかなければならないと実感しました。

今回の経験を通して、私は人と自然との関わり方を学びました。今後は環境について今まで以上に意識を高め、自分にできることから行動していきたいです。

児玉 湖珀

環境を守るために

一口に「環境保全活動」といってもいろいろあるのだということを、私は今回の派遣で学びました。クイーンズクリフでのリサイクルワークショップやワン・プラネット・フェスティバルで行っていたことは、どれも形は違いますが環境を守ることにつながっています。外来種の雑草を自国の植物と植え換えること、また外来生物について知ることすらも環境保全活動の一環です。「生きものの絶滅を防ぐ」など、大きな目標をすぐに実現することはできません。

ですが、その目標を実現へと導く小さなことならすぐにでも始められます。直接的ではなくても環境を守るために私たちができることはあるということ、また今私たちに何ができるかを今後広めていきたいです。

新谷 桜有希

すべて繋がっている

「すべて繋がっている」これが今回の派遣で強く感じたことです。スワンベイのスタッフの方々にお話をうかがったとき、藤前干潟と同じようにマイクロプラスチックが南半球のジロング市でも観察されていると聞きました。今日食べたお菓子の袋が、ペットボトルが、過剰包装が、オーストラリアの環境破壊に繋がっているかもしれない。そう思うと恐ろしくなりました。渡り鳥は一部の人だけで守ることはできません。だからこそ世界で手をとり合って協力することが大切です。

その第一歩としてまず「知る」ことが大切だと考えました。大きなことはできなくても課題や対策を知ることで保全の輪は広がっていく。「知る」ことができた私は「知らせる」ことで保全の輪を広げていきます。

杉野 瑞怜

湿地がつなぐ世界と未来

湿地はたくさんの生き物が暮らして水をきれいにし、子孫を残したりする大切な役割があることを知りました。また、ラムサール条約についても調べ、世界は国境を越えて生き物や水、自然環境でつながっているということを実感。ジロングでは多くの湿地に足を運んで生態系の違いや周囲の環境の違いなどを学びました。

どこに行っても現地の方々が付きっきりで、湿地の特徴やそこに住む生き物について丁寧に熱心に説明してくださり、自然を大切にすることや、身近な環境を守るために行動することの大切さが深く心に残る研修でした。

今回学んだことをこれからの生活に生かし、自然環境を守ることを自分自身のこととして考えていきたいです。そして、実践したことや、その結果を報告しにまたジロングへ行きたいと思っています。

杉山　愛

ジロング市の人々の環境意識の高さ

私は今回の派遣を通して、現地の人々と交流し、実際にこの目でオーストラリアの環境保全に対する取り組みを学ぶことができました。ジロング市を訪れて特に印象に残ったことは、どこに行ってもごみが落ちていないことです。ジロング市全体が環境保全に力を入れており、人々の環境意識も高く、とても驚きました。

また、環境フェスティバルでは幅広い年代の人々が環境保全について楽しんで学んでいる姿が印象的でした。

仲間と共にたくさんの学びを得ることができたこの六日間は私にとって一生の宝物です。今回の学びをたくさんの人々に発信し、少しでも環境への関心の輪を広げていきたいと思います。

中村 悠愛

現地の方の環境への意識

現地の方々は、たくさんの人が環境に意識をしていました。その中で私は、メルボルン動物園の方々が1番印象に残っていて、飼育員の方々はトイレットペーパーの紙を再生紙にしているなど環境に配慮していること、大切にしていることが身にしみてわかりました。そして私たちに出来ること、水の出しすぎ、ごみの分別、ティッシュなどの使いすぎなど私たち1つ1つのことが海外にも影響しその行動が未来にもつながっていくのだと思いました。

そしてこの知識をもっと他の方々にも伝え湿地の価値観や動植物の価値観を高めて干潟に訪れる人にもっともっと伝えていけたらいいなとこの派遣を通して思いました。

山﨑 梨暖

体験して分かること

私は今回のジロング市派遣を通して、環境について学ぶだけでなく、実際に現地へ行くことの大切さを実感しました。私はこれまで環境問題はニュースや授業の中の出来事のように感じていました。しかし、現地で湿地を見たり、人々の行動を見たりしたことで、環境を守ることは特別なことではなく、1人1人の日常の積み重ねなのだと感じました。

さらに、現地の人々との交流を通して、言葉や文化が違っても、お互いを理解しようとする気持ちが大切だと学びました。プレゼント交換や発表でも緊張しましたが、多くの人と関わることができ、自分から行動することの大切さも実感しました。

今回学んだことをこれで終わらせるのではなく、藤前干潟の環境保全活動や日常生活での行動につなげていきたいです。そして、実際に体験することで初めて分かることがあるという学びを、大切にしていきたいです。

船木 さくら

派遣を通じて

僕は、海外に行くことが、この派遣で初めてで、かつてない緊張と不安を抱えながら日本を飛び立ちました。現地では、見るものすべてが僕にとっては真新しいものでした。

今回の派遣で特に印象に残ったことは、オーストラリアの方々の環境保全意識の高さです。僕達が派遣された時期には、丁度環境フェスティバルが開催され、地域の人々が一丸となって様々な取り組みを行っていました。現地の方々は、僕達の質問に親切に答えてくださり、深い学びを得ることができたと感じています。また、町中を歩いているだけでも、市民の生き生きとしたエネルギーが伝わり、道にはごみが1つも落ちていませんでした。

この派遣を通じて、これからの環境保全を考える大きな手がかりを見つけることができました。今回の派遣での経験を活かし、今後の日本の環境保全にも関わっていきたいです。

松岡 広樹

生物・環境に対する意識

私がオーストラリアの派遣に参加し、印象に残ったことはオーストラリアの生物・環境に対する意識です。オーストラリアでは、各地で生物・環境に対する取り組みがたくさん行われていました。まずメルボルン動物園では、動物がストレスを軽減できる展示方法が工夫されていました。例えば檻を広くし、その中に水辺や草木を植えていました。そうすることで動物が本来の生息地に近い環境で生活をすることができていました。また動物園の園内の他、訪れた施設や道路でポイ捨てされたごみは見つかりませんでした。よく見てみるとオーストラリアにはいたる所にごみ箱が設置されていました。ごみ箱のまわりはごみがあふれることなく清潔で一人一人の環境への高さが表れていました。日本も一人一人が意識を持って行動することで環境が守ることができると思いました。私は今回の派遣でたくさんの貴重な体験ができました。このことを忘れず、これからも環境保全活動に貢献していきたいです。

河　愛希

オーストラリアで印象に残ったこと。

私はこの派遣事業に参加する前は、環境問題についてほとんど知らない状態でした。身の回りに特別環境問題に気を使っている友達がいないからです。

実際にオーストラリアに行ってびっくりしたことは、環境についての意識が高い人が多かったことです。ワンプラネットフェスティバルでは年齢問わずたくさんの人が参加していたり、ペットボトルのキャップのリサイクル体験など日本ではあまり見ない方法でした。そのおかげか、日本は綺麗な町というイメージがあったけど、オーストラリアの町は日本よりもごみが少なくて自然が多くて綺麗でした。

オーストラリアではたくさんの方が1人1人の協力が大事と言っていて、自分だけが環境問題についてたくさん知るのも大切だけど、たくさんの人が興味を持って協力するほうが大切と強く感じました。なのでオーストラリアで学んだことをもっと身の回りの人に伝え、興味をもってもらう努力をしようと思いました。貴重な経験を今後も活かしていきたいです。

山本 梨乃

全身全霊で学んだ日々

この派遣を通して、自然の豊かさを強く実感しました。広大な湿地と珍しい水鳥に感動しました。さらに、メルボルン動物園は街中にあるのに、飼育動物よりも野鳥が大量にいて衝撃的でした。また、少し郊外へ出ると、雄大な牧草地も広がっていました。このようにもっと自然を身近に感じられる名古屋になってほしいと思いました。

言葉の壁や様々な不安等の試練もありました。新しいことをするのは怖かったですが、自分を振り返りながら挑戦し続け、壁を乗り越え、思い切ってチャレンジしてみると、世界が広がることを、身をもって感じました。

この旅だからこそ学ぶことができた豊かな自然、工夫、人の温かさなどを、様々な形で生かしていきたいです。

吉川 奈緒

環境について学んだこと

初めての飛行機、初めての海外、ずっとワクワクが止まりませんでした。期待を胸に降り立ったジロング市では、様々な動物や食べ物に出会え、広大で美しい景色を見ることができました。

特に印象的だったのは、メルボルン動物園です。動物との距離がとても近く、コアラや黒鳥を間近に見ることができました。また、メルボルン動物園では、環境保全活動にも力を入れていて、動物を見るだけの場所ではなく、人々が環境保全について学ぶ場所としての役割を果たしていることを知りました。

オーストラリアでは、人と動物との距離の近さが環境意識の高さに結びついているのだと感じました。派遣事業で学んだことを活かして、これからも環境保全活動に関心を持ち続けたいです。

吉田 千桃

MEMORY ALBUM

Best Memories of Geelong

BEST PLACE

1 スワンベイ干潟



2 メルボルン動物園



3 One Planet Festival



BEST ANIMAL

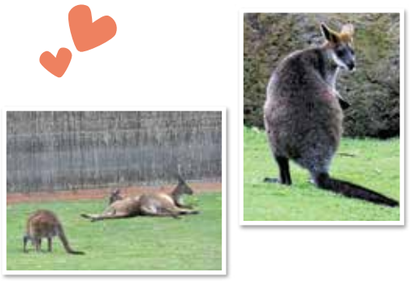
1 コアラ



2 ウォンバット



3 カンガルー



BEST FOOD

1 フィッシュ＆チップス



2 和牛ハンバーガー





3 ステーキ



BEST SOUVENIR

1 Tim Tam



2 紅茶（T2）





3 ぬいぐるみ





感　想

知るだけではなく、実際に現地を訪れて名古屋市との違いを感じられたことで、１人ひとりの意識や行動を少し変えるだけで、周りの環境を大きく変化させられるということがわかりました。ごみを正しく捨てることや身近な自然に関心をもつことなど小さなことから少しずつ始めていきましょう！